

報道関係各位
プレスリリース

2026年2月吉日
日本ゴルフジャーナリスト協会
会長 小川 朗

日本ゴルフジャーナリスト協会が選出する JGJA 大賞
2025 年度は「鹿沼グループ」に決定しました



日本ゴルフジャーナリスト協会（会長：小川 朗）は、2025 年度 JGJA 大賞に『鹿沼グループ』（代表者：福島 範治）を選出しました。

また3月6日（金）、パシフィコ横浜（所在：横浜市西区）で開催される「ジャパンゴルフフェア 2026」における「JGJA セミナー」にて、表彰式およびセミナーを行います。

■ JGJA大賞 表彰式およびセミナー

【日 時】2026年3月6日（金）10時30分より

【会 場】パシフィコ横浜「ジャパンゴルフフェア 2026」（URL：<https://www.japangolffair.com/>）
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1 TEL：045-221-2155
〈アクセス〉みなとみらい線「みなとみらい駅」より徒歩約3分
JR 根岸線「桜木町駅」より徒歩約12分（[アクセス](#)）

【題 目】ゴルフの普及と振興の現在地とこれから
～地域発信の可能性（JGA 主催・R&A がバックアップの「コミュニティゴルフ」）～

【参加費】無料

【登壇者】鹿沼グループ 代表取締役社長 福島範治氏
日本ゴルフ協会 専務執行役 山中博史氏
鹿沼市長 松井正一氏

【司 会】JGJA 会長 小川朗

【主 催】日本ゴルフジャーナリスト協会（URL：<https://jgja.jp/>）
▷詳細案内（URL：<https://jgja.jp/2026013110865/>）

■鹿沼グループ

【選考理由】

日本ゴルフ協会（JGA）および栃木県鹿沼市と連携し、2025年11月に日本初となるR&A公認「コミュニティゴルフ」ジュニア育成プログラムを導入。インストラクターを育成して地元の小学校や市街地の施設に「ゴルフを出していく」活動をスタートしました。このような活動を評価し、2025年JGJA大賞に決定しました。

【表彰式にて】

3月6日（金）、「ジャパンゴルフフェア2026」にて執り行う表彰式&セミナーでは、鹿沼グループ代表の福島範治様、日本ゴルフ協会専務執行役の山中博史様、そして鹿沼市長の松井正一様にご出席いただき、お話を伺う予定です。

【鹿沼グループ概要】

運営ゴルフ場：鹿沼カントリー倶楽部、鹿沼72カントリークラブ、栃木ヶ丘ゴルフ倶楽部

代表取締役社長：福島 範治

グループ本部：〒322-0532 栃木県鹿沼市藤江町 1548-61

URL：<https://kanuma-g.com/>

■JGJA大賞

JGJA大賞とは、「ゴルフを通じた社会貢献やゴルフの振興などに尽力した方を、独自の視点で選び、今後のさらなる活躍を応援する」という目的で、2014年度から実施し、2025年度で12回目となります。

同賞は、2023年度まではJGJA会員による投票のみで選出していましたが、2024年度からは、多岐にわたる分野から、よりの確な個人や団体を選出しようという目的で選出方法を改定。

JGJA会員の推薦（個人・団体）の中から会員投票を行い、投票結果をもとに「社会貢献度」、「ゴルフ振興への尽力度」、「独自の視点度」、そして「今後への期待度」の4つの視点から理事会で議論。KT法^(注)による評価分析を行い選出しました。

(注) KT法（ケプナー・トリゴー法）：合理的な問題解決と的確な意志決定を導き出すための思考法

【JGJA大賞歴代受賞者】

2025年度で12回目となるJGJA大賞の歴代受賞者は次の通りです。

●第1回（2014年度） 田村尚之氏

サラリーマンプロとして目覚ましい活躍をみせたことを評価。

●第2回（2015年度） 中井学氏

インストラクターでありながら、敢えてJPGAのトーナメントプロテストに挑戦。見事2位となりツアー資格を取得した功績を評価。

●第3回（2016年度） 青山加織氏

今年4月の熊本地震で本人も自宅で被災。その後、被災地のために自ら軽トラックを運転して物資の供給を行うなど被災者の為に活動し、プロゴルファーという仕事を通じて実情を世間に知らせ、支援を呼びかけると共に、それを続けている彼女の勇気と行動力を評価。

●第4回（2017年度） 表純子氏

昨年のミヤギテレビ杯ダンロップ女子オープンで記録は止まってしまったが、年間で35試合を越えるトーナメントが開催されているツアーの中、ツアー最多連続出場「241試合」を達成した功績を評価。

PRESS RELEASE

●第5回（2018年度） タイガー・ウッズ氏

昨年9月のUSPGAツアー「ツアー選手権 by コカ・コーラ」で2013年以来となる見事な復活優勝を果たしたタイガー・ウッズ選手を評価。

●第6回（2019年度） 三觜喜一氏

YouTubeの「MITSUHASHI TV」のチャンネル登録者数が20.5万人に達し、2019年大ブレイクを果たしたことを評価。

●第7回（2020年度） アース製薬株式会社／会長 大塚達也氏

コロナ禍で2020年女子ツアーのトーナメントが開幕から中止の相次ぐ中、6月に同社が主催する「アース・モンダミンカップ」を無観客とした上で徹底した感染対策を行って開催に踏み切り、その後の他の大会開催に勇気を与えるとともに、テレビ放映をせずに全日インターネット中継を実施する新しい試みを行い、新たなゴルフファンを獲得するなど成功を収めた同社の決断を評価。

●第8回（2021年度） 松山英樹氏

日本人初のマスターズ制覇。

●第9回（2022年度） ガレス・ジョーンズ氏

2015年に日本ゴルフ協会の招きで来日、ナショナルチームのヘッドコーチに就任した。以来、10代の選手を中心としたナショナルチームの選手の教育、育成に尽力されて、『教え子』の中から畑岡奈紗、金谷拓実、中島啓太らプロツアーでのアマチュア優勝者を輩出。2022年には蟬川泰果が日本オープンで95年ぶりにアマチュア優勝を果たした。また、ナショナルチーム出身者の活躍に刺激された多くのジュニアゴルファーのレベルアップにも寄与し、日本のゴルフ界、特に将来を担う人材に影響を与えたことを評価。

●第10回（2023年度） 久常涼氏

QTから挑戦したDPツアーのフランス・オープンで、日本選手3人目のDPツアー優勝を果たすとともに、日本選手として初めてサー・ヘンリー・コットン新人賞を受賞。ポイントランキングで2024年米ツアーの出場権を獲得し、欧州ツアーを経由して米ツアー出場権を手にした日本で最初の選手になった。海外を目指すゴルファーの励みとなり、今後の道しるべとなる快挙だったことを評価。

●第11回（2024年度） 帯広国際カントリークラブ（支配人：柴田和則氏）

帯広国際カントリークラブは、地元振興のために「道東オープンゴルフ選手権」を50年に渡り50回、自社運営で開催を継続してきました。長きにわたり、地元振興という目的を貫き、大きなスポンサーに依存せず、自社での開催を継続し続けた姿勢を評価。

【本件に関するお問い合わせ先】

日本ゴルフジャーナリスト協会／事務局：林 智子

E-mail：info@jgia.jp / お問い合わせフォーム：<https://jgia.jp/contact/>